

# 糸魚川市大規模火災に関する調査

新潟工科大学 建築学科 田村良一

まず、2016年12月22日に発生した新潟県糸魚川市での大規模火災により被災された方々に心からお見舞い申し上げます。鎮火から1週間後に大規模火災の焼損状況や焼け止まり状況について、目視での調査を行いましたので、その結果をまとめています。

## 1. 糸魚川大規模火災に関する情報 (消防庁 平成28年12月29日16時30分現在より)

発生日時:平成28年12月22日10時20分頃

人的被害:負傷者16人、建物被害:焼損棟数144棟、焼損面積約40000m<sup>2</sup>

その他:気象状況 最大風速13.9m/s(12月22日10時20分 現在 気象庁発表)

最大瞬間風速27.2m/s 南南東 (12月22日11時40分現在、観測場所:糸魚川市消防本部)

2. 調査日時:2016年12月30日 11:00～17:00

## 3. 調査結果

2頁以降に、建物の焼損状況を示す写真を掲載します。

## 4. 感想

燃えずに残った出火元付近の商店街建物を見ると、その隣棟間隔は、人が入れないくらい狭く、比較的初期の火災拡大は早かったものと推察された。耐火建築物の銀行、JAなど(RC造?)は外壁又は窓ガラスに多少の損傷は見られたが、通常営業を行っていたことが印象的であった。

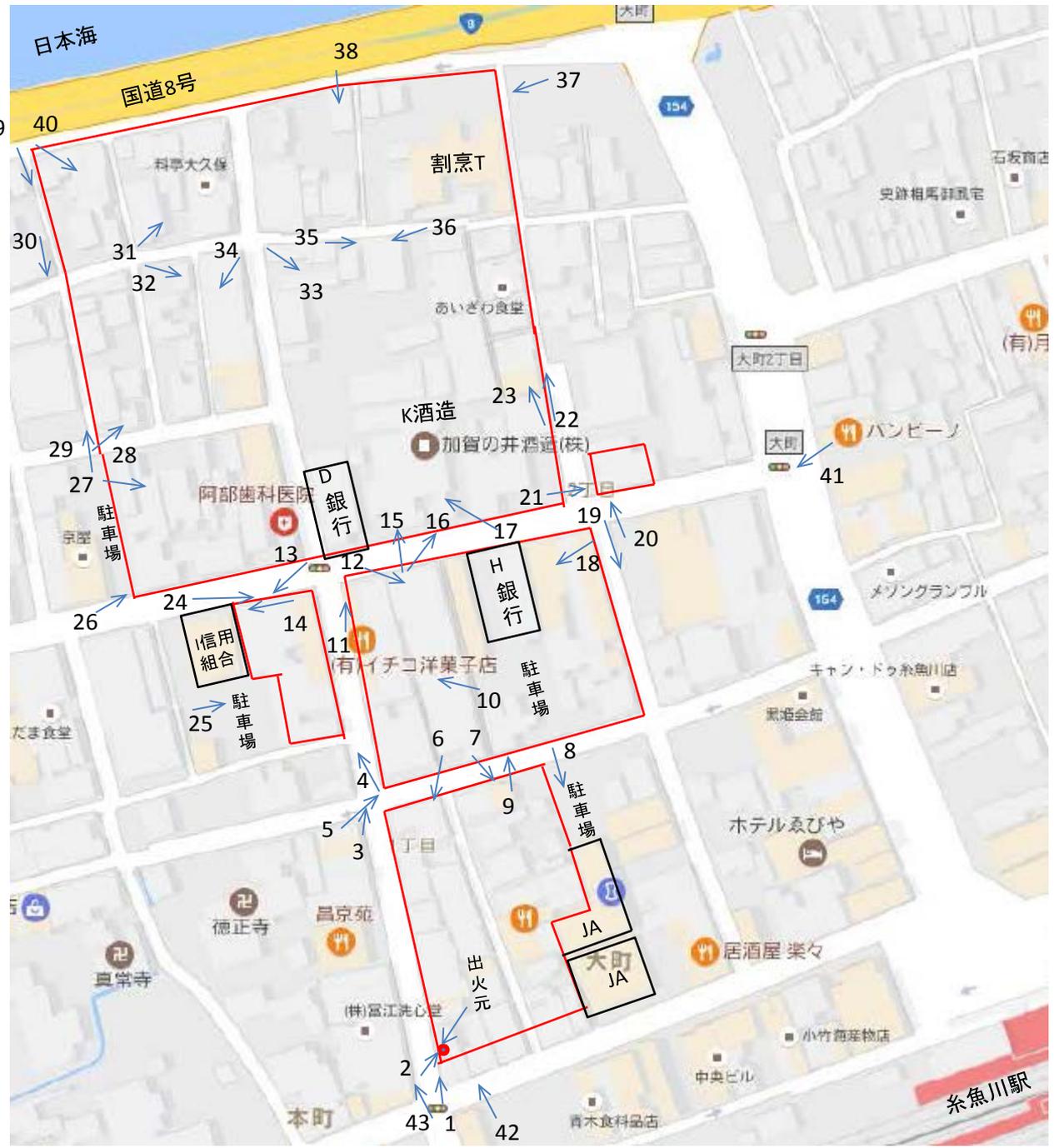
火災の拡散は、強風による飛び火の影響<sup>例えば1)</sup>が指摘されているので、焼け止まりと道路幅等の関係を考えることは簡単には出来ないと考えられるが、焼け止まりラインは道路、又はある程度広い駐車場と対応していた。これら焼け止まりラインには幅員の比較的狭い道路等も含まれており、消火活動による影響が大きいものと推察された。

1)「糸魚川火災 推定150棟焼く大火 延焼のなぜ」毎日新聞 2016年12月23日21時36分

# 焼損地域と写真の位置と方向

赤枠は今回の調査で焼損と判断された地域です。  
図中の番号は、3頁以降の写真の番号を示し、矢印は対応する番号を撮影した場所と方向を示します。

出火元は赤丸(図の下方)で示します。





1 : 出火元付近を駅前の通り側から



2: 出火元付近(通り側は消火活動の影響が残っている)



3



4

3



5



6: 出火元の通りを裏側から



7



8: JA(RC造?)の左側には焼損は見られない  
手前は駐車場



9:隣接しているが焼損が見らなかった住宅(右側)



10



11



12



信用組合

13



信用組合

14: 信用組合より奥では焼損は見られなかった



焼失したK酒造

15



焼失したK酒造

16



17: 周囲が焼損したD銀行



18: 周囲が焼損したH銀行



19: 道路の左側では焼損は見られない



20



21



22: 細い道路であるが、右側の住宅には  
焼損は見られない



23



24



25: 焼け止まりのI信用組合駐車場から



26: 焼け止まりのD銀行駐車場から



27



28



29: 細い道路であるが、左側の建物には焼損は見られない



30: 29の道路を逆から(左側が焼損地域)



31



32



33



34



35: マスコミに取り上げられ奇跡の木造住宅



36: 奇跡の木造住宅(周囲には、狭いが駐車場、道路、空き地があるようであった)



37: 焼失した割烹T



38: 奇跡の木造住宅(海沿いの国道8号側から)



39: 右側の住宅には焼損は見られない



40



41: 雪よけの雁木(商店街)



42: 出火元付近の建物(駅前の通りから)



43: 出火元の通り反対側の商店街